

京都教区時報

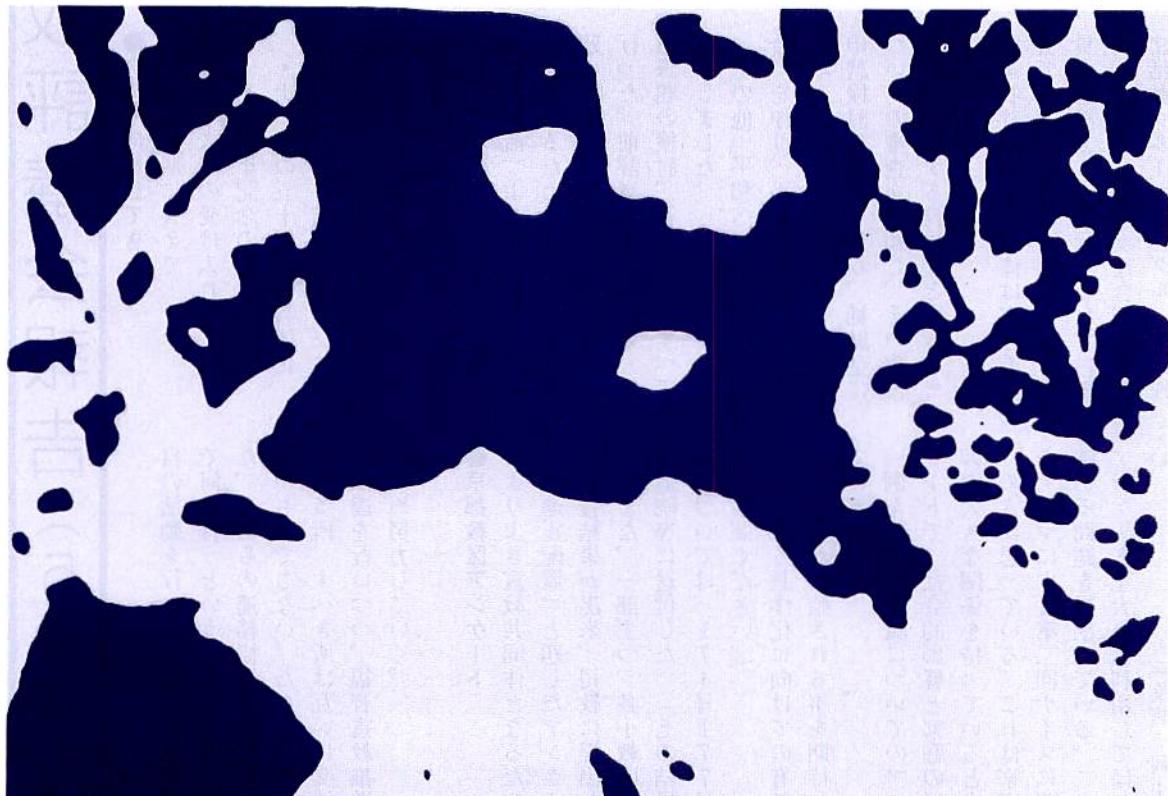
第178号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨

編集 京都教区時報編集室 住所 京都市中京区河原町三条上る河原町カトリック会館5F



ただ見ているだけならば
白と黒の変な写真

雪どけのあとをとつたのだと
ただそれだけですませられる

だけある時
それがそう見え始めた時

そのイメージが見えてきて
それ以外には見えなくなる
みなさん何に見えますか?

私は……

キリストの顔に見えます

いろいろな人 いろいろな問題
いろんな事に 出合う時

一つのまなざしが全体を変える
視点の変換

ナイス2にむけて
何を見ようとするのですか

宣教司牧評議会報告（5月）

●新メンバーで発足

前号でお知らせしました様に、新メンバーの任命が行われた。規約が改正され、評議員一期三年（再任も可）となり、今後の活躍が期待される。今までメンバーとして、その使命を果たされた方々の労をねぎらいたい。ご苦労様でした。

●今まで何をしてきたか

司教の諮問に答えて

- ・ナイス1の受け入れ方

- ・五十周年記念の取り組み方

- ・ナイスの五十周年の具体化

例えば、資料委員会、アジア交流委員会、青年センター設立。また、信徒の意見をまとめ、三つの優先課題を検討し、司教に答申したこと。

パイプのつまり（情報伝達及び交流）よりよい福音宣教共同体となるため（適正配置）の問題に取組み、これに対する答申を行った。前評議会は、以上の三優先課題の検討、答申の役をすべて完了しました。

その他「平和への歩み実行委員会」を作り、平和の歩みについての取り組みをゆだねたり、補助金申請検討委員会を作り、補助金についての審査を依頼し、その報告を聞き承認する務めなどを行いました。

例えは、司祭職についてのアンケートで、社会的影響と家庭の信仰が大きな関係を持っていると多くの人が思っている。これは家庭ではないので、必要に応じて委員会を設立し、実行を委ねている。

尚、信徒協、修道女連合、司祭評、アンケートを大いに利用してほしい。

第一回評議会開催の予定は、六月十三、十四日。それに先立ち、常任委員会が五月二十二日に開催。常任委員長として奥本裕明氏（小山）を選出。第一回評議会議題を決める。

●宣教司牧評議会の性格

（規約四条）

宣教司牧に関する諮問機関で

- ①司牧の諮問に答える。

- ②教区間の意見を集め立案具申する。

- ③したがつて、決定機関でも、他の種々の協議会を統括指示する最高機関でも、実践機関でもあります。言うならば、司教の知恵袋のようないすです。

司教評議会それ自体は実行委員会ではないので、必要に応じて委員会を設立し、実行を委ねている。尚、信徒協、修道女連合、司祭評、諸活動グループ等各グループは独

自の活動を行い、司牧評の管轄下で何を行うということもない。また、それらの連絡協議会的役割を持つものでもない。ただし、協力できる所、すべき所は互いに交流と伝達を行いつつ、福音宣教推進のため努力していく。

教区事務所はその状況を把握し、必要な範囲でその被災を教区内に持つものでもない。ただし、協力できる所、すべき所は互いに交流と伝達を行いつつ、福音宣教推進のため努力していく。

- ①被災した場合直ちに教区事務所に報告。
- ②教区事務所はその状況を把握し、必要な範囲でその被災を教区内に持つものでもない。ただし、協力できる所、すべき所は互いに交流と伝達を行いつつ、福音宣教推進のため努力していく。
- ③通達を受け自己の判断で見舞状及び見舞金を出す。
- ④教区からも見舞金を出す。
- ⑤保険についての諸手続きを直ちに取組み、教會共済保険（カリス）に加入。教會共済保険（カリス）については教区事務所が本部に連絡し、その事後処理を依頼する。
- ⑥被災所の再建計画に関して、教区事務所は必要な助力をする。

ここから具体化に向けての有効な取組みが開始される事を期待している。

例えは、司祭職についてのアンケートで、社会的影響と家庭の信

仰が大きな関係を持っていると多くの人が思っている。これは家庭ではないので、必要に応じて委員会を設立し、実行を委ねている。尚、信徒協、修道女連合、司祭評、アンケートを大いに利用してほしい。

（文責 村上）

司祭評議会報告

●審議事項

- 1 教区間の教会、施設の被災に対する対応について、司教に上申。

- ①被災した場合直ちに教区事務所に報告。

- ②教区事務所はその状況を把握し、必要な範囲でその被災を教区内に持つものでもない。ただし、協力できる所、すべき所は互いに交流と伝達を行いつつ、福音宣教推進のため努力していく。

- ③通達を受け自己の判断で見舞状及び見舞金を出す。

- ④教区からも見舞金を出す。

- ⑤保険についての諸手続きを直ちに取組み、教會共済保険（カリス）に加入。教會共済保険（カリス）については教区事務所が本部に連絡し、その事後処理を依頼する。

- ⑥被災所の再建計画に関して、教区事務所は必要な助力をする。

- 2 司祭、修道士研修会（八月二十四から二六日）内容・第二回ナイスに向けた取り組み方の現状の分かれ合いで
- 3 第二回ナイスに向けての取り組み方の現状の分かれ合いで
- 4 教区の「建物の維持管理検討委員会」について司教顧問会で検討され推進される様、司教に上申する。

（五月十一日付）議長花井拓夫師

NICE II 第二回福音宣教推進全国会議

第二回福音宣教推進全国会議

京都教区課題案まとめ!

〈京都教区課題案〉

- ① 家庭・教会・学校における信仰教育
- ② 社会と社会の問題に関わる家庭
- ③ 信仰共同体としての家庭および教会

●経過

第二回福音宣教推進全国会議にむけての課題案づくりにご協力くださいありがとうございます。教区内から一一〇枚に及ぶ課題案や分かち合いの報告が寄せられました。司教より任命された担当者が集まり、それらの課題案を整理し、三つの課題案にまとめ、全国会議事務局に送りました。

●説明

① 教育に関する課題案は二十
三あり、具体的には「子育て」「子どもの信仰教育」「親の役割」「青少年と教会」「カトリック学校の役割」などのテーマがありました。NICE II のテーマは「家庭」ですが、信仰教育について広く考えていくようにこの課題案

としました。

② 寄せられたもののうちで、社会についてのテーマが二十五ありました。「高齢化社会」「情報社会の悪影響」「信仰生活と社会生活」などの課題案が具体的に出されました。家庭は社会と関わるを得ないものですが、特に社会の問題についての提案が多く出されたので、「社会」と「社会の問題」に関わる家庭」と表現したわけです。

③ 「家庭の福音化」「夫婦の信仰」「一人信者の問題」「家庭の祈り」など、「家庭内の信仰生活」についての課題も多く寄せられました。同時に、「家庭」がテーマであるにもかかわらず、「離婚者と教会」「教会と障害者をもつ家庭」「信仰共同体としての教

会」「血縁を超えた信仰の家族」など、「教会」に関する課題案がずいぶん多く寄せられました。これは、「家庭の問題」は「教会の問題」であること、「教会」は一つの「家庭」であると考えられていました。そのような考え方を尊重し、3の課題案としました。

●NICE IIに向けて

これらの課題案と共に、全国教区から寄せられた課題案をもとに、六月の司教會議で正式な「課題」が決められます。今後はその「課題」のもとに話し合いを進めてゆくことになります。

第二回NICE IIに向けて、いろいろなところで話し合い、取り組んでおられることと思います。また、話し合いをしたもの、課題案を作るに至らなかつたグループもあるかもしれません。

しかし、そういった話し合いや取り組みは、「課題」発表後の話し合いに向けて大切な準備です。それぞれの共同体やグループで、そういう取り組みを行つてください。

(NICE II担当・柳本昭)

●ビデオ・ドキュメント
『ファティマ』

対象・中学生以上一般
(三十分。定価三千円)

今なぜファティマなのか。
七十年におよぶソビエト共

産党主義支配の歴史に幕がおりても、科学万能的な考え方や、自分の能力で切り開く能力などが重要視される現代、あたかも人間中心、神なしの色濃い社会に変わりがあります。

飢えを覚えることのない私たちの日常は、隣人愛に確たる根拠を持ちえない風土の中にある。戦争も遠い記憶になっています。

ファティマは単なる反共運動ではなく、神と他者を愛することのできない、全ての人への回心に、身を挺して戦う運動であることを読みとれるでしょう。

制作・ルーメン2000、92特集の申込・音響映像グループメディアセンター(GMC)名古屋市昭和区八雲町70
TEL 052-831-3196

カトリック京都司教区

現勢調査報告

(一九九一年一月一日～十二月三十一日)

教区教勢の概略を報告いたします。
詳しい数字は、三月十日付で
各小教区に届いているものと思いま
すので省略いたします。

①概況

面積 一四、七七六・一一 km²

(一府三県)

人口 七、〇三九、一二七人

信者総数 二一、二三三人

求道者数 二四一人

小教区 四七

巡回教会 一二

司祭 (司教を含め) 八二人

(内教区司祭七九人)

修道士 一三人

修道女 二八四人

男子宣教修道会 一四人

女子修道会 一九

信徒伝道師 一四人

A 社会福祉施設 一三

病院等七種類

B 教育施設 幼稚園(二五)
を含む教育施設 四五

C 一般施設 一九

④信徒数

1 信徒数 一〇、七三九人

2 求道者数 二四一人

3 成人 二二五人

4 幼児 一八七人

5 結婚 一七八組

6 信者 一七八組

7 未信者 四〇〇組

8 死者 一八七人

9 日曜日 二九・七%

10 復活祭 五一・五%

11 クリスマス 七六・六%

12 修道士 一三人

13 修道女 二八四人

14 男子宣教修道会 一四人

15 女子修道会 一九

16 信徒伝道師 一四人

17 A 社会福祉施設 一三

18 病院等七種類

⑤ミサに与る人

小学校部では十小教区、中

学部では三十小教区が教会学

校を持つてない。中学部で

は全小教区の半数以上が持つ

ていない。

■人員構成の内訳

	邦人	外国人		邦人	外国人
A. 司教	1	0	E. 修道女	3	0
B. 司祭	18	0	1. イエズスの小さい姉妹の友愛会	24(1)	4
1. 教区			2. ウイチタの聖ヨゼフ修道会	14	0
2. 宣教会			3. 幼きイエズス修道会	16	0
a. メリノール会	0	17※	4. カルメル会	9(1)	5
b. グワダルベ会	0	4	5. カロンデレットの聖ヨゼフ会	3	0
c. ザベリオ会	0	1	6. 汚れなき聖母の騎士	3	0
d. フィリピン会	0	2	7. コングレガシオン・ド	ノートルダム	0
3. 修道会			ノートルダム	3	0
a. ヴィアトール会	1	5	8. 汚れなきマリア修道会	3	0
b. エスコラビオス会	0	4	9. 聖ウルスラ修道会	3	0
c. カルメル会	2	2	10. 聖心のウルスラ宣教女修道会	7	2
d. ドミニコ会	3	1	11. 聖ドミニコの宣教修道女会	5	0
e. マリスト会	0	10	12. 聖ドミニコ女子修道会	6(1)	1
f. レデンブトール会	2	5	13. 聖母訪問会	32	0
g. フランシスコ会	0	2	14. ヌヴェール愛徳修道会	28	0
h. カブザン会	1	0	15. ノートルダム教育修道女会	56(3)	11
4. プレラトゥーラ・ペルソナーリス			16. メリノール女子修道会	2	10
オブスティ	1	1	17. 善きサマリア人修道会	3	1
合計	28	54	18. 聖ヴィンセンシオの愛徳姉妹会	3	0
※メリノール・アンシェイト(1名)を含む			合計	220(6)	34
F. 在俗会	()内は修練者及び志願者				
聖母カテキスタ会	23	1	G. 伝道師	信徒	修道者
H. 合計	14	6	1) 男	3	1
			2) 女	11	5

第二次中東派遣団に参加して

平和を訴え、 自由を求めて、 体験を 伝え続けたい。

加瀬 弘子(高野教会)

湾岸戦争の際、避難民移送に携わった湾岸避難民救援実行委員会(GERE)が、集まつた募金を基にその後の救援プロジェクトを展開しておられ、その視察をかねて第二次中東訪問団員を募集されたのを機に、私はこの企画に応募しました。

派遣団の構成は、総勢二十名

(女子八名、男子十二名)、年令

構成は一八〇六九才まで、各世代に三五名位。参加者は、日本キリスト教協議会(NCC)・新日本宗教団体連合会・カトリック関係と一般募集に応募してきた人達でした。

訪問地はヨルダンのアンマンと、イスラエルのエルサレム・西岸地区・ガザ地区等が予定されていました。皆同じ目的を持って参加し



ている故か、緊張しながらもこの十日間は、議論あり、笑いありの楽しい旅となりました。残念ながら、ガザ地区は前日に起きた事件の為封鎖され、訪れることが出来ませんでしたが、エルサレムにおいて、グループに分かれて行動した折、私が訪問したプロジェクト現場で経験した事を伝えさせて頂きたいと思います。

私のいたグループは、パレスチナ農業救援青年会の人達に案内され、ある難民キャンプを訪れました。のどかな田舎の集会所といった施設で、庭の木の茂みの中で鳥たちがさえずっていました。

この農業組合といつたグループの青年達は、この地の難民達に小動物の飼育や酪農・農業の指導、婦人たちに生活指導や手に簡単な

職を付けるように手ほどきをしているとの説明を受けました。私達が案内された建物の一画には、鶏の飼育場があり、先頃食肉用として出荷した後を受け、時期出荷の為のひよこを育て始めたところでした。

ひよこは、卵から一日目のを買って、掘つ立て小屋のような広い建物に移して飼育することでした。その他、食肉用に兔も飼つてあります。丁度子供が生まれたとか、鳥たちがさえずっていました。

この青年達は、この地の難民達に小動物の飼育や酪農・農業の指導、婦人たちに生活指導や手に簡単な

一羽の鶏が籠から抜け落ちて地面に座り込んでいたのは、なんとも可愛らしい有様でした。

施設の様子や、同席していたパレスチナ難民の婦人達からうける印象はゆつたりと静かでしたが、未亡人で子供が五人あり、どうして食べていいかで精一杯だ、とか、未亡人で多くの子供がありながら、代わる代わる刑務所に捕えられている等の話を聞いて、その現実の厳しさを知らされました。通り見学し終つたとき、突然婦人の一人が祈るような調子で呼び始め、通訳をしていた青年達にも止めることが出来ませんでしたが、その気持ちは意味が解らなくても私達にひしひしと伝わつてきました。「ヨルダンになつてほしいのでも何でもない、ただ私達は平和と自由がほしいのだ」と……。私達は、この婦人に日本へ帰つて皆にこの事を伝えますと約束するのが精一杯でした。

平和と自由を謳歌している日本にあつては氣の付かぬ厳しさや苦しみが、パレスチナでは、日常生活の中に厳然として存在していることを、体験を通して見る事が出来ました。今、私はここに、あの婦人との約束を果たすと共に、これからも人々へ伝え続けて行こうと思います。

カトリック・スカウト

京都教区支部短信

カトリック・スカウト京都教区支部ではノートルダム小学校山の家に於いて、三月二十七日(金)より二十九日(日)までの二泊三日で第十二回宗教トレーニング・キャンプを開催しました。

このキャンプは京都教区内小教区が、育成母体となり育成しているガールスカウト団(以下GS)及びボーイスカウト団(以下BS)のうち、中学二年生並びに高校生年代のスカウトにカトリック・スカウトとして信仰入門コースの練成会として毎年行っているものであります。

本年は、BS団六ヶ団・GS団七ヶ団、の参加が有り、参加スクワットは五十九名に及びました。テーマは昨年の「主の祈り」に続くもので、「愛……キリストの愛、父母の愛」のもとに主任指導講師としての部指導司祭バルデス師を始め、各団指導司祭の四名の神父様方及び応援指導講師として浅田師(西陣教会)も駆けつけて下さり、熱気の溢れる練成キャンプとなりました。

今回のキャンプでBS京都十四団(西院教会所属団)、京都二十五団(伏見教会所属団)のスカウト各一名に、ボーイスカウト・キリスト教の授与を、また、GS京都二十五団(河原町教会所属団)スカ

ウト二名にガールスカウト宗教工イド取得資格の支部認定書(BS・GSの連盟規約の違いにより同じに授与できなかつた)を授与することが出来たことです。

BSキリスト教章及びGS宗教エイドは、スカウトの種々の習得章とは異なり、スカウトとしての名誉章と言われるもので、一年半に及ぶ宗教関連章取得講座を受講し、バルデス指導司祭の指導を熱心に受け連盟より授与されたものです。

支部としても十年ぶりの取得者で、その上四名ともが未洗者であることも特筆すべきことではないかと思います。

このことは、この後に続くスカウトの励みにもなり、胸に輝くキリスト教章が、あたらしいカトリック・スカウティングを切り開いてくれるであろうことを期待するところです。

牛歩の歩みではありましたが、各小教区の信徒の皆様のご支援ご理解のおかげを持つて、やっと各団にカトリック・スカウト団としての自覚が深まつてまいりました。スカウトたちも、今、キャンプを終え、新しい氣概に燃えております。よりいつそうのご支援をお願いいたします。

(支部事務局・広報担当)

カトリック京都司教区 田中健一司教同行

聖地巡礼の旅

田中司教同行の
聖地巡礼は
最初で最後?

司教言

ローマ教皇謁見と聖地イスラエル

ローマ～エルサレム～ペト拉ヘム～死海～エリコ～タボル山
～ガリラヤ湖～カナ～ナザレ～カルメル山～カエサリア

1992年11月16日(月)～11月30日(月) 15日間

498,000円

募集案内の問い合わせ先: カトリック河原町教会受付・教区事務所

企画主催: 河谷龍彦事務所(イスラエル国家公認ガイド・添乗も担当)

取扱旅行代理店: JTBサン&サン(運輸大臣登録一般旅行業 第588号)

◎宿泊はデラックス・ホテル、暖房付きの大型バス使用、全行程食事付き

この夏、ヒロシマが熱い!!

そろそろ夏休みの計画も固まつてきたところだと思いますが、「今年の夏はヒマだなー」とか「何かおもしろいことはないかなー」とか思つてらっしゃる方もおられることがあります。そんなあなた! この夏はヒロシマで大集合してみませんか?

中学生広島体験学習 '92

毎年恒例の中学生広島体験学習(旧・広島巡礼)。今年もやります。

今年は3泊4日とスケジュールが一日増えました。広島に行く前に大津教会に一泊し、広島で起つたことや、原爆投下に至る戦争の歴史などを学んだり、仲間づくりのためにゲームをしたりします。

中学生のみなさん、この夏、ヒロシマで平和について学び、祈るひとときを過ごしてみませんか? リフレッシュした広島体験学習を準備するべく、リーダー一同も燃えています。

青年広島巡礼

河原町教会の青年会では、この春から新しいメンバーも加わって、いろいろな企

画を始めるこことなりました。その一つがこの「青年広島巡礼」です。最初は河原町教会の青年会だけの行事として企画されたのですが、あちこちに相談したりするうちに、「それやつたらもつと拡げたらええやんか」ということで、青年一般にひろく呼びかけることになりました。

真の正義と平和とは何かを考えるために、多くの青年の参加をお待ちしています。

他教区では

京都教区以外の各教区もヒロシマに注目しています。大阪教区の青年は自転車で広島巡礼をするなんてことも考えているようですし、東京や横浜からも8月6日に広島に行く、という計画を立てているようです。自分のスケジュールにあわせて、他教区の旅行に参加する、なんてことも面白いかもしれませんね。

活動してきました。

先のサイクロンの際に、私達の呼びかけに応じて皆様から温かい支援を頂くことができましたのも、皆様が交流を通じてこれを遠い国々の不幸せとしてではなく、自分達の痛みとして感じてくださったからだと思います。

ただいま、委員会では、私達と一緒に活動して下さるメンバーを募集しています。アジアに、また国際交流に関心のある方、彼の地に住む人々の痛みを、喜び分かち合いたいと思つておられる方、メッセージをお待ちしています。御連絡くださいませ。これからも精一杯頑張りたいと思います。

京都からの巡礼旅行も、広島での他教区の青年や中高生との交流を考えています。ヒロシマで新しい出会いがあるかも!? 各企画のお問い合わせは青年センター075・822・6246まで。

(((((お))))) あんてな



アジアの友人に

思いを馳せて

KYOSIA委員長

小幡 利夫

で計画していく予定ですが、現在、第二回バングラデイシユ派遣の報告集を作成中です。メンバーの体

験を共に分かち合いたいと思っています。

ただいま、委員会では、私達と一緒に活動して下さるメンバーを募集しています。アジアに、また国際交流に関心のある方、彼の地に住む人々の痛みを、喜び分かち合いたいと思つておられる方、メッセージをお待ちしています。御連絡くださいませ。これからも精一杯頑張りたいと思います。

発足以来KYOSIA委員長として御努力くださった平竹氏(河原町教会)に替り、新委員長に小幡氏(丹後教会)が就任しました。

お知らせ

教区スケジュール

7月

- 2日 司祭評議会
 5日(日)結婚相談会13時～15時
 (河原町カトリック会館6F)
 国本師典礼音楽講座
 (西院カトリック会館)
 13日 家庭研究会(河原町)
 16日 カルメル山の聖母
 (女子カルメル会)
 18日 部落問題研究会
 (河原町カトリック会館)
 26日(日)子羊会默想会(大津教会)
 4～6日教区中学生広島巡礼
 6～15日平和旬間
 13～15日滋賀県青少年夏期練成会
 12～16日京都カトリックぶどうの会ワーキングキャンプ(大島青松園)
 22～23日青年センター運営委員会
 24～26日司祭・修道士研修会

8月

- 18日
 日時・1992年6月28日(日)
 場所・カトリック会館6階
 共催・糠みその会／京都南部平和への歩み
 協賛・京都働く人の家／滋賀働く人の家／正義と平和京都協議会／
 きょうと福音センター
 テーマ・人間の理想と現実
 講師・松本秀友神父
 日時・1992年6月28日(日)
 場所・聖ドミニコ女子修道院
 対象・青年男女
 参加費・無料
 申込み・左記に葉書又は電話
 〒602京都市上京区河原町今出川梶井町48
 聖ドミニコ修道院
 TEL(075)231-12017
 (名古屋直052-831-5037)
 ・7月28日(火)～31日(金)
 宗教・倫理教育ワークショップ
 (中高宗教倫理担当者のため)
 費用 35000円(定員30名)
 日時・6月27日(土)午後5時30分から28日(日)4時
 場所・宇治カルメル黙想の家

▼家庭にひそむ農薬

殺虫剤・防カビ剤・殺菌剤など
 お話・山崎昌子(日本消費者連盟)

関西グループ

日時・1992年6月28日(日)

午後2時から4時

場所・カトリック会館6階

講師・ルカ・ホルステング神父

日時・6月21日(日)

午後1時30分

場所・河原町教会地下ホール

主催・南部カトリック信徒協議会

後援・フランシスコ会(フランシスコの家)カトリック京都教区

費用・一泊二日 5000円
 指導・奥村一郎師(カルメル会)

連絡先・0775-65-8920

対象 信徒・修道者・司祭

費用 2400円

▼京都とキリストンの歴史

映画「日本二六聖人殉教者」と講演

講師・ルカ・ホルステング神父

日時・6月21日(日)

午後1時30分

場所・河原町教会地下ホール

主催・南部カトリック信徒協議会

後援・フランシスコ会(フランシスコの家)カトリック京都教区

典礼コース 新しい賛美の歌を求めて(募集発表作品も含め)

対象 信徒・修道者・司祭

費用 2400円

●第四回教区合同洗礼志願式

去る3月9日(四旬節第一)に参

加された志願者は67名(内子供2名)でした。これはザーン・ラツ

キ両師により提唱され、四年前に始められたもの。3回目から浅

田師が責任者となり、ていねいな準備のもと、年々充実しつつある。

キ両師により提唱され、四年前に始められたもの。3回目から浅田師が責任者となり、ていねいな準備のもと、年々充実しつつある。



(J)